

本種が得られたのは、民家天井裏に営巣された繁殖カスト生産期のモンズズメバチ(図2)巣であり、駆除完了後に回収された巣の巢盤中と残渣の中から、本種の成虫が得られた。営巣場所が暗閉所であったため、排泄物残渣の回収が十分ではなく、幼虫の生息状況を把握できなかった。

ちなみに今回の記録に似た事例として、1944年9月に、ドイツのKronberg im Taunusにおいて、屋根裏のモンズズメバチ巣からナミクシヒゲハネカクシの幼虫を多数得た例が報告されている(Strassen 1957)。

引用文献

- 岩田泰幸, 2010. チャイロスズメバチ巣内より得られたナミクシヒゲハネカクシについて. 甲虫ニュース, (170), 19-21.
- 松浦 誠, 1995. 図説社会性カリバチの生態と進化. 北海道大学図書刊行会, 札幌. 353 pp.
- Spradbery, J. P., 1973. Wasps: An account of the biology and natural history of solitary and social wasps. University of Washington Press, Seattle. 408 pp.
- Strassen, R. 1957. Zur Oekologie des *Velleius dilatatus* Fabricius, eines als Raumgast bei *Vespa crabro* Linnaeus lebenden Staphyliniden (Ins. Col.). *Z. Morph. Ökol. Tiere*, 46, 243-292, Abb: 1-11.
- Watanabe, Y., 1990. A revision of the Japanese species of the genus *Velleius* (Coleoptera, Staphylinidae). *Elytra*, 18, 59-72.
- (〒940-1104 長岡市撰田屋町2633-3
ニューロンサニター(株)
岩田泰幸・深田 純)
(岩田: laccotrephes_1874@yahoo.co.jp)

【短報】小笠原から*Eidoreus*を記録

Eidoreus は、テントウダマシ科の Eupsilobiinae に所属する微小甲虫で、ハワイを原記載地とする *Eidoreus minutus* Sharp, 1885 を模式種として創設された属である。

その所属をめぐっては過去に紆余曲折があり、Sharp (1885) はオオキノコムシ科の所属のもとに記載し、本属のシノニム *Eupsilobius* はカクホソカタムシ科として記載されている (Casey 1895). Sen Gupta and Crowson (1973) は、カクホソカタムシ科の総説の補遺中でテントウダマシ科の特異なものであると推定し、予測される幼虫形態について言及している。一方, Sasaji (1986) および佐々治 (1987) は、本属成虫を詳細に検討した結果、テントウダマシ科に所属するものとした。

本属の世界的な分布状況をみると、熱帯域の島嶼部を中心に広く知られ、ハワイのオアフ島のほ

か (Sharp 1908), Tomaszewska (2000) によれば、キューバ、ヴァージン諸島、グアダループ島、ガラパゴス諸島、マスカリン諸島、セーシェル諸島、スリランカ、フィジー島、フランス領ポリネシア、ソロモン諸島から知られている。

日本からは, Sasaji (1991) がツヤチビテントウダマシ *Eidoreus japonicus* を記載し、本州(静岡県)、九州(福岡県)、琉球(沖永良部島、沖縄島)から分布が知られている。筆者の手もとに小笠原諸島母島で採集された *Eidoreus* があるので記録しておく。なお、種の確定には至らなかったため、属レベルの記録にとどめておく。

6 exs., 東京都小笠原村母島中ノ平, 31. XII. 2007, 福富宏和・筆者採集。

本属は、アリとの関係性が指摘されている (Pakaluk and Ślipiński 1990; Arriaga-Verela et al. 2007 など)。上記個体も枯れ木の樹皮下に形成されたアリの蟻道内より見つかったが、アリは採集しておらず、アリの種特定には至っていない。なお、別地域での筆者自身の経験では、枯れ木樹皮下に営巣したシワアリ属 *Tetramorium* の巣内部に複数個体がいたのを観察している。

末筆ながら、採集に同行していただき、本種の標本を託された福富宏和氏(白山市)、種々ご教示をくださった上野輝久氏(福岡市)に深謝したい。



図1. *Eidoreus* sp. (背面/腹面)。

引用文献

- Arriaga-Verela, E., Tomaszewska, K. W., and Navarrete-Heredia, J. L., 2007. Asynopsis of the Endomychidae (Coleoptera: Cucujoidea) of México. *Zootaxa*, 1594, 1-38.
- Casey, T. L., 1895. Coleopterological notice. VI. *Annals of the New York Academy of Sciences*, 8, 451-456.
- Pakaluk, J. and Ślipiński, S. A., 1990. Review of Eupsilobiinae

- (Coleoptera, Endomychidae) with descriptions of new genera and species from South America. *Revue Suisse de Zoologie*, 97(3), 705-728.
- Sasaji, H., 1986. Systematic position of the genus *Eidoreus* Sharp (Coleoptera: Clavicornia). Papers on entomology presented to Prof. Takehiko Nakane in commemoration of his retirement *Special Bulletin of the Japanese Society of Coleopterology*, (2), 229-235.
- 佐々治寛之, 1987. テントウダマシ科とその周辺分類体系. 福井虫報, 1, 44-51.
- Sasaji, H., 1991. Contribution to the taxonomy of the superfamily Cucujoidea (Coleoptera) of Japan and her adjacent districts, VI. *The Memoirs of the Faculty of Education, Fukui University Ser. II (Natural Science)*, 41, 11-25.
- Sen Gupta, T. and Crowson, R. A., 1973. A review of the classification of Cerylonidae (Coleoptera, Clavicornia). *Transactions of the Royal Entomological Society of London*, 124, 365-446.
- Sharp, D., 1885. On some new species and genera of Coleoptera. *Scientific Transactions of the Royal Dublin Society*, 3, 146.
- Sharp, D. and Hugh, S., 1908. Fauna Hawaiiensis or the zoology of the Sandwich (Hawaiian) Isles volume III, Part V. Coleoptera III, Cambridge 367-579 pp. XIII-XVI pls., 415p.
- Tomaszewska, K. W., 2000. Morphology, phylogeny and classification of adult Endomychidae (Coleoptera; Cucujoidea). *Annales Zoologici*, 50, 449-558.

(埼玉県川越市 亀澤 洋)

御蔵島におけるシラホシカミキリ属 2 種の後食植物

高桑正敏¹・岸本年郎²・岸田泰則³・須田真一⁴

¹ 神奈川県立生命の星・地球博物館

² (財) 自然環境研究センター

³ 日本蛾類学会

⁴ 東京大学

伊豆諸島御蔵島におけるシラホシカミキリ属 *Glenea* Newman としてはシラホシカミキリ伊豆諸島中南部亜種 *G. relictia izuinsulana* Fujita とリュウキュウルリボシカミキリ伊豆諸島亜種 *G. chlorospila hachijonis* Matsumura et Matsushita の 2 種が分布して個体数もきわめて多く、後食対象は一般に前種がアジサイ類(ユキノシタ科)、後種がブドウ類(ブドウ科)とアジサイ類の生葉と知られている(草間・高桑, 1984 ほか)。筆者らは「東京都の保護上重要な野生生物種」調査の一環で 2010 年 6 月 12 ~ 14 日と同年 7 月 4 ~ 6 日, 7 月 19 ~ 21 日に現地を訪れた際、上記シラホシカミキリ属の新たな後食対象植物を確認できたこと、また既知の後食対象植物についても明らかとなった興味深い点があるので、それらについて発見状況などを添えて報告しておきたい。

(1) 新たな後食植物について

最初の観察は 6 月 13 日, 御蔵島南西部に位置する南郷付近の, タマアジサイとガクアジサイ, ハチジョウイチゴ, カラムシ, ラセイタソウ, アシタバ, アザミ類などの低木・多年草草本が混生する崖に面した道路脇であった。筆者らの 1 人, 岸田がラセイタソウ葉上からいくつものシラホシカミキリとリュウキュウルリボシカミキリを発見したが、既知の後食対象のブドウ科でもユキノシタ科でもなかったのもそれ自体に疑問をもった高桑と岸本らが調べたところ, タマアジサイとともにラセイタソウ(イラクサ科), ハチジョウイチゴ(バラ科)に後食痕を認めた。後食痕はタマアジサイとラセイタソウにより多く, ハチジョウイチゴはより少なかったが複数の個体で確認できた。一方, タマアジサイと同科同属のガクアジサイからは後食痕を発見できなかった。続いて 7 月 5 日, やはり南郷付近で高桑と須田がオオムラサキシキブ(ク